

研究協力をお願い

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究課題名：頭部 CBCTMAR 機能における再構成位置が金属アーチファクト低減効果に及ぼす影響

1. 研究の対象および研究対象期間

2022 年 1 月～2022 年 12 月に昭和大学横浜市北部病院で脳動脈瘤に対してコイル塞栓術を受けられた方

2. 研究目的・方法

近年、脳動脈瘤治療においては、開頭術とともにカテーテルを用いて動脈瘤部にコイルを充填して治療を行う脳血管内治療^{※1}が行われています。治療に用いる血管撮影装置では、CT のような横断画像や画像データから 3D 画像を作成することができ、術後においては脳出血など合併症の有無を把握することができる、cone beam CT 画像(CBCT)^{※2}を撮影することができます。しかし、治療に使用する金属のコイルによりアーチファクトが発生し、画像欠損によりコイル周辺の把握が困難になる場合があります。その際には、金属アーチファクト低減機能(Metal artifact reduction: MAR)^{※3}を使用することにより、観察することが可能となる場合があります。しかし、画像再構成をする位置により低減効果が得られない場面もあります。

本研究では、頭部 CBCTMAR 機能における再構成位置が金属アーチファクト低減効果に及ぼす影響を把握するために過去に脳動脈瘤に対してコイル塞栓術を実施した症例データを用いて、再構成の位置が金属アーチファクト低減効果に及ぼす影響について後ろ向き検討を行います。術後 CBCT を撮影したデータのみを使用します。解析データは CBCT 画像を用いて各位置で画像再構成した際のアーチファクト量を測定します。患者データは、病院内の装置付随のワークステーションにて「3. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから 2024 年 3 月 31 日まで

用語説明

※1 脳血管内治療：頭蓋内や頸部の血管性病変に対して直接患部を切開せずにカテーテルを用いて治療を行う方法の総称

- ※2 come beam CT: X線装置を回転させることにより、CTのような画像を取得することができる撮影法
- ※3 金属アーチファクト低減機能: 画像処理により、障害陰影(画像が見えにくくなるもの)を低減して見えやすくする画像再構成方法

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2022年1月～2022年12月に昭和大学横浜市北部病院で脳動脈瘤に対してコイル塞栓術を受けられた方の画像データを使用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究対象者より本研究終了後、試料・情報等を将来の研究で使用する事の同意を取得した場合、本データは将来の研究で使用する可能性があります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院 放射線技術部 氏名：先山 耕史

住所：224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7000

研究責任者：先山 耕史